

研 究 の 考 察
研究の成果と今後の課題

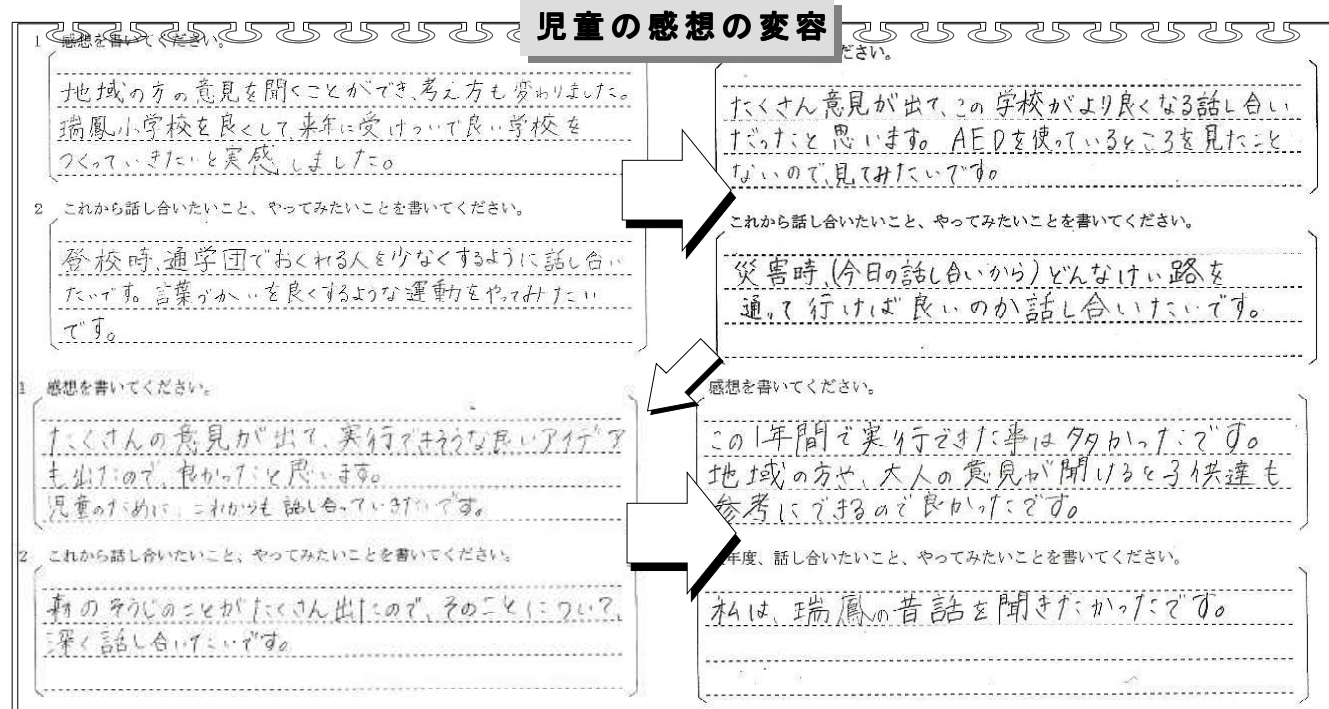
1 実践の考察

(1) 研究仮説1の考察

子どもを中心に学校・家庭・地域が協議したり協働したりする場を設定すれば、それぞれの教育力が活性化し、互いに支え合い高め合う気運が高まるだろう。

ア 瑞鳳小ふれあい子ども会議の感想の考察

児童会役員、議員が参加する瑞鳳小ふれあい子ども会議は年4回行った。全ての回に参加している児童の感想を追跡調査すると、次のような変容がみられた。



参加保護者の感想

壁面ペイント壁に参りました。感想を見ると、子どもからも大人からも好評であり、ふれあいが深まった様子がみられた。子どもの感想にもあるように、地域の大人とふれあうことを楽しんでいただようである。

このことから、児童と大人で協働した活動を行うことは、子どもを中心に学校・家庭・地域を支え合い高め合う気運が高まるのに、有効な手段であると考えられる。

ウ 地域行事の参加について（支え合い高め合う地域行事）

ふれあい子ども会議

で、毎回共通テーマの「ふれあい活動」について話し合いをすることで、子ども達の地域への関心も高まってきた。昨年度と比較して、地域の行事への参加率が増加している。また、盆踊りや敬老茶会へのボランティア募集にも積極的に応募する姿も見られるようになった。さらに、6年生の学力学習状況調査の質問調査「今住んでいる地域の行事に参加していますか」についても、本校の子ども達は地域行事によく参加していることが分かる。

このことから、ふれあい子ども会議で、地域の方々と話し合いをしたことは、学校の教育力を活性化し、地域の行事を盛り上げ、高め合おうとする気運を高めるのに有効であったと考える。

ボランティア児童の感想

ジュース、お茶を配る。子どもから大人までジュース、お茶を買いに来られてとてもうれしかったです。こうして地域のためになれることはまだまだたくさんあると思うのでどんどん参加をしていきたいです。

本児童の感想を考察すると、常に前向きに考え、学校をよりよくしたいと考えている。その中で、地域の方々や大人と話し合うことで、より具体的に考えるようになってきた。また、地域の方々も、瑞鳳小ふれあい子ども会議を好意的に捉えており、子ども達の成長を楽しみにしているような感想もみられた。

地域の方の感想

感想をお書きください。

昨年より一回と比べて、今年の方が発言も多く出て発表もよくできたと感じました。(昨年5年生の子から答えてくれた人が多かった)

このことから、瑞鳳小ふれあい子ども会議は、学校・地域を活性化するのに有効であったと考えられる。

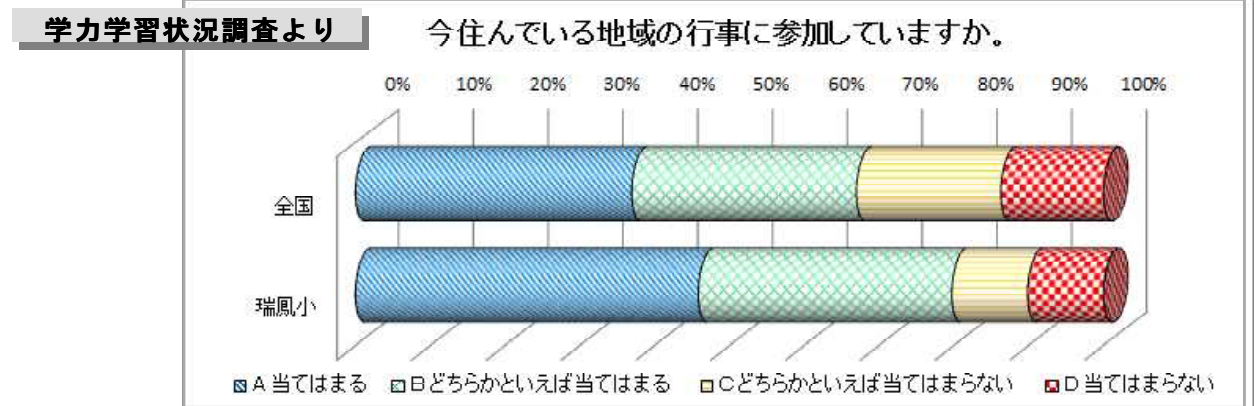
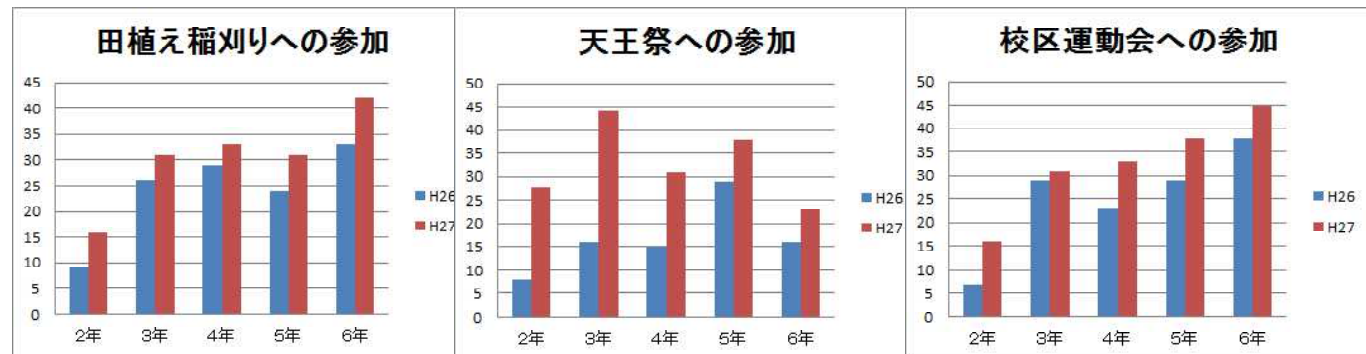
イ 児童と大人で協働した行事の感想の考察

本校はPTA活動や地域の行事などで、大人と一緒に活動する取組が多くある。今回の研究では、運動場の壁画を復活する作業を大人と子ども

参加児童の感想

壁画、いろいろな人とコミュニケーションがとれて、たのしく仕事ができたので、よかった。

地域の人とふれあいなから、楽しめるのはよかったです。にいで、どりの学年の先生と色などをあわせるのが大変でした。すまな、こまかいところをぬるのか、学年にはむずかしいと思っ。きうたいでよなじはなたんとうするの、むずかしいと思っ。



(2) 研究仮説2の考察

目的を明確にして、様々な世代の人々と関わり合い、つながり合うようにすれば、多様で豊かな人間関係を築き、自己肯定感や自己有用感を高め、自ら伸びようとする気持ちを高めるであろう。

ア 保育園との交流に関する考察

現6年生は、前年度に保育士体験を行い、現2・3年生は、前年度に保育園との交流会を行い、多くの児童が園児と関わっている。

保育士体験をしているときの様子を見ると、園児をいたわろう、思いやりとする気持ちが高まってきていることが分かる。また、保育士体験後の子ども達の感想をみると、保育士として働いたことに対する達成感が高まっていることも分かる。保育士さんの感想をみると、保育園側からの評価も高いものがあり、キャリア教育としても有意義であった。

アンケート結果からは、園児と仲よくしたいと思っている小学生が、「仲よくしたい」と「少し仲よくしたい」をあわせて80%前後いることが分かる。

このことから、保育園という異年齢の子ども達と関わり合いを持たせたことで、いたわりや思いやりの心を育てるのに有効であったと考えられる。

児童の感想

1 やってよかったこと、たのしかったことなどを書いてください。

保育園の子がとてかわいかった。初めは「いきなり」やがた、たけと本を語り始めた。急にシーンとなって、うしろけんについてくれた。うれしかった。

1 やってよかったこと、たのしかったことなどを書いてください。

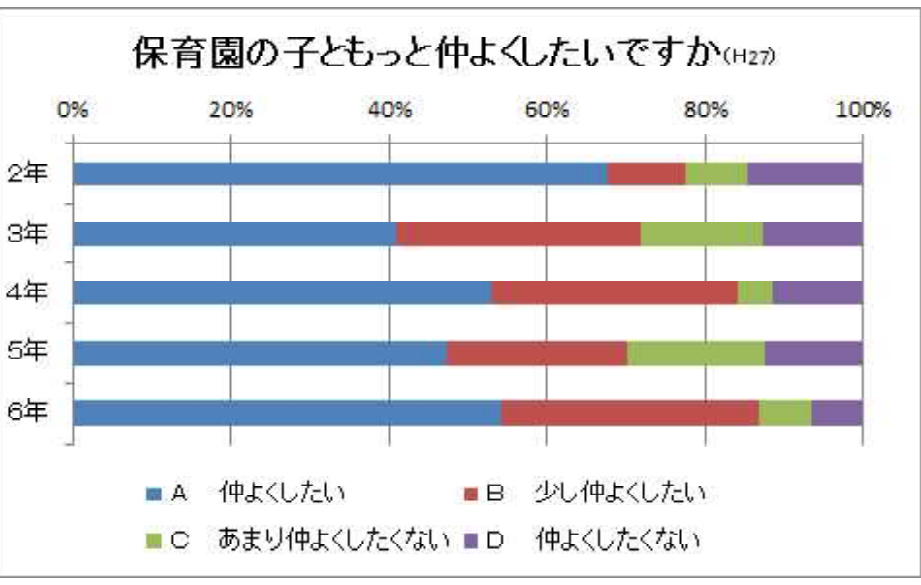
題名を読むときが、静かになって、よかった。終わってから「ありがとうございました」といってくれて、やってよかったと思った。

保育士さんの感想

とてお交流の機会にたいと思っております。課外活動後の遊いの時間での交流も、お親いも持つ様子。小学生の生き生きとした表情も、印象的でした。

反省点や要望などがありましたら、お書きください。

後半に向けて、放課後の時間お任せ利用。自由に遊ばせてもらい、自然な形で交流が。……お話し、相談させて頂きたいと思っております。



イ 地域の方々との交流に関する考察

児童の感想

おじいさんやおばあさんがきてくれてうれしかったです。おじいさんとちよこことはなせてうれしかったです。また、やれたらいいなとおもってます。

いろいろなことをおしえてあげました。いっしょにおはなしをしたよ。とてもたのしかったです。もうかいいっしょにごはんきたべたり、いっしょにおはなししたいな。

お年寄りの方が身近にいない子ども達にとって、給食交流会でお年寄りと一緒に会食するのは、よい経験となった。「うれしかった」「たのしかった」という低学年の感想にもあるように、地域の方々、お年寄りを歓迎していることが分かる。

また、お年寄りからも好意的な感想を得ることができ、有意義な交流会となったことが分かる。

このことから、地域の方々やお年寄りに関わり合ったことにより、様々な世代とのつながりを自覚し、豊かな人間関係を築くことができたと考えられる。

地域の方の感想

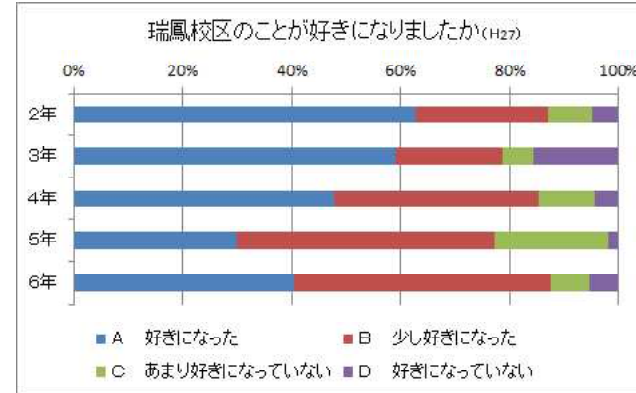
4人の子供と一緒に食べました。スナックガードをやるせいか、(通学時は挨拶しない子も)良く話しました。553の献立表を見せると、「銀がなりのに驚いていました。食べる前にいきなり要らないから戻すに言えなかったが、同席の子が、僕はおかゆに真意に行くと聞いていました。給食の内容は良く食べているよのたと思ひます。ついでに家族構成を聞いたら祖母と同席が二人いたのは、多い方でしょうか。終わって同席していない子が多く集って来て話しかけてくれたのが楽しかったです。

ウ アンケート結果に関する考察

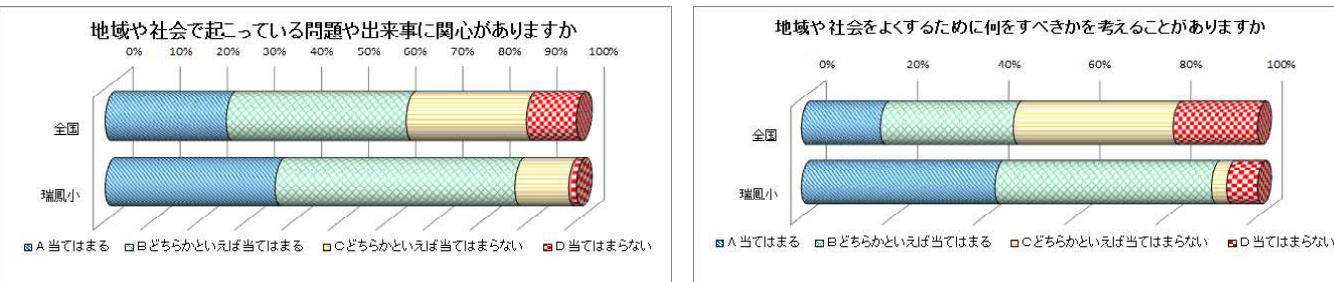
アンケートの「校区のことが好きになりましたか」の結果をみると、「好きになった」「少し好きになった」をあわせると、80%前後になっている。

学力学習状況調査の質問調査「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか」「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」の結果を見ても、意識が高くなっていることが分かる。様々な世代の人々と関わり合い、つながり合うようにしたことによって、地域社会への関心が高まり、地域社会をよりよくしようとする気持ちが高まったと考えられる。

このことにより、地域のよさを知らせ、地域社会とのつながりを深めたことにより、地域に愛着を持ち、地域に貢献しようとする気持ちを高めることができたと考えられる。



学力学習状況調査より

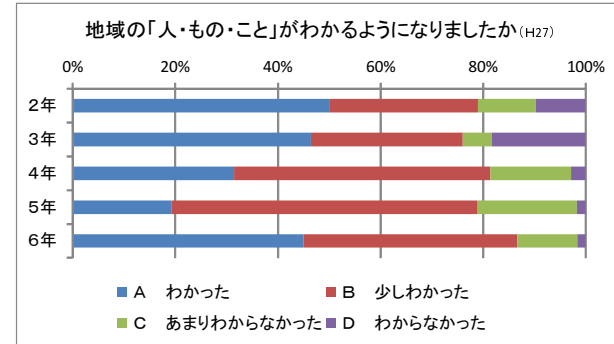


(3) 研究仮説3の考察

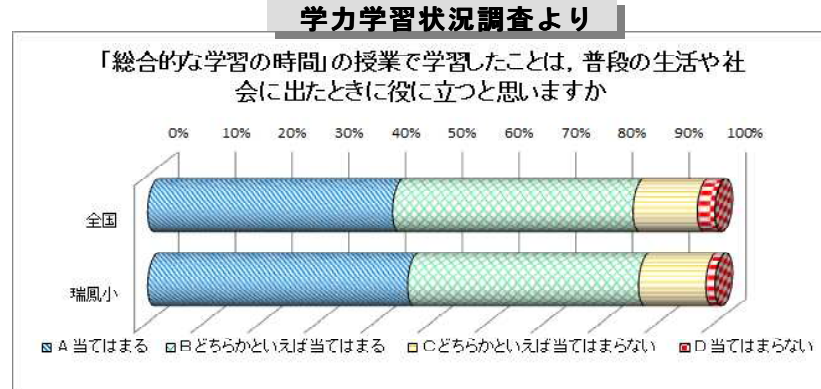
授業の中で、地域のひと・もの・ことを意図的計画的に活用すれば、児童の活用力や探求心を高めることができるであろう。また、このことで、教員自身も活用型・探求型の授業展開ができるようになり、授業力が向上するであろう。

ア 児童アンケートより

児童のアンケート結果を見ると、生活科や社会・理科などの地域学習をしている学年は、学校で学んだことを家や地域で活用しようとする傾向がある。ただ、地域の「ひと・もの・こと」を意図的計画的に授業に取り込むことが難しい面もあり、活用力や探求心を高めるまでには至らなかった面もあり、課題として残った。



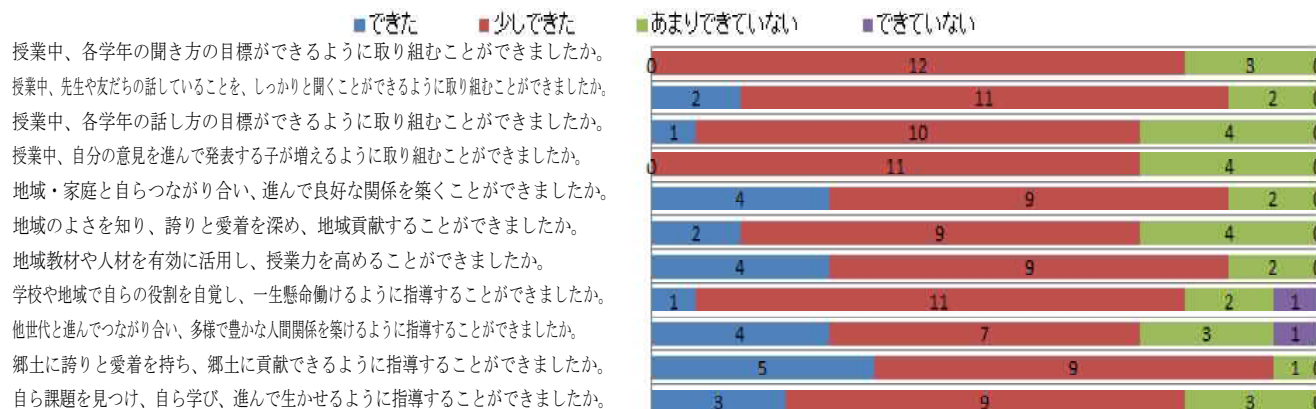
また、学力学習状況調査の質問調査「総合的な学習の時間」の授業で学習したことは、普段の生活や社会に出たときに役に立つと思いますかの結果を見ると、若干ではあるが、役立てようと考えていることがわかる。今後さらに実践を重ねる必要がある。



イ 教員アンケートより

教員アンケートの結果を見ると、「郷土に誇りと愛着を持ち、郷土に貢献できるように指導」については、多くの教員が意識するようになってきたことが分かる。また、「地域・家庭と自らつながり合い、進んで良好な関係を築くこと」「地域教材や地域人材を有効に活用し、授業力を高めること」についても、徐々に意識するようになってきていることが分かる。これとは逆に、「授業中、各学年の聞き方の目標ができるように取り組むこと」「授業中、自分の意見を進んで発表する子が増えるように取り組むこと」はまだ十分とは言い難い状況である。

教員のアンケート



2 成果と今後の課題

本研究では、テーマを「地域と未来をつなぎ、自ら伸びようとする児童の育成～地域のひと・もの・ことをつなぎ、創り上げ、続ける活動を通して～」として、学校・家庭・地域とのつながりを深める中で、コミュニティスクールを視野に入れた学校運営のあり方や児童の育成方法について研究してきた。2年間の研究の中で次のような成果と課題がでてきた。

(1) 研究の成果

- ア 学校支援ボランティアを設置し、地域コーディネーターを新設したことで、ボランティア活動を一層活性化したり、ゲストティチャーを容易に申し込むことができたりするようになり、学校教育をより充実させることができるようになった。
- イ 瑞鳳小ふれあい子ども会議で、地域の方々と話し合いをしたことは、学校の教育力を活性化し、地域の行事を盛り上げようとする気運を高めるのに有効であった。
- ウ 児童と大人で協働した活動をするには、子どもを中心に学校・家庭・地域を支え合い高め合う気運を高めるのに、有効な手段となった。
- エ 異年齢の園児と関わり合いを持たせたことは、いたわりや思いやりの心を育てるのに有効であった。
- オ 給食交流会など地域の方々と交流する場を設定したことは、地域の人への関心を高め、多様な人間関係を育むのに有効であった。
- カ 地域行事を掲示したり紹介したりすることは、地域の「もの」や「こと」への関心を高め、地域への愛着を持たせるのに有効であった。
- キ 授業の中で、地域の「ひと・もの・こと」を意識することは、児童・教員ともに地域への関心を高めるのに有効であった。
- ク 授業の基本となる「授業スタンダード」を意識することによって、授業規律などを浸透するのに役立った。

(2) 今後の課題

- ア 瑞鳳小ふれあい子ども会議に出席する児童は、児童会役員・議員であるため、学校をよりよくしていこうという意識は一部分では高まったものの、学校全体としては、まだ不十分な部分もあった。瑞鳳小ふれあい子ども会議で話し合ったことを、児童全体、学校全体へと還元する方法を検討する必要がある。
- イ 様々な世代の人々と関わり合い、つながり合う機会が多くなったが、自己肯定感や自己有用感をより一層高めるための指導方法をさらに研究する必要がある。
- ウ 地域の「ひと・もの・こと」を常に意識して取り組むというところまでには至っていない。教員が一層地域を知り、授業に活かそうとするシステムを構築する必要がある。
- エ 活用型・探求型の授業展開については、十分とは言い難い。授業力をさらに向上させるための研修を充実させる必要がある。